

資源管理に必要な情報の提供事業 - 定置網漁獲統計調査

久野正博

目 的

定置網に関する詳細な漁海況情報を蓄積して伝達することにより、資源管理を行っていくための基礎資料とする。

方 法

三重県内18ブリ定置漁場のうち、和具（休漁中）・波切・長島・有井を除く14漁場を対象に平成15定置年度（平成15年10月～平成16年7月）の魚種別漁獲量を調査した。

結 果

詳細については平成15定置年度（平成15年10月～平成16年7月）三重県ブリ定置漁獲統計で報告したので、以下は結果の概略を示す。

平成15定置年度の総漁獲量は3,966トンで前年度比95.2%であった。魚種別ではブリが901トンと最も多く全魚種の22.3%を占めた。次いでマアジ506トン、サバ459トン、ワラサ369トン、カタクチイワシ362トン、スルメイカ142トン、シイラ135トン、マルソウダ126トン、イサキ103トン、その他アジ類76トンであった。漁獲量10トン以上の魚種の中で前年度と比較して漁獲が増加したのは、マイワシ（前年度比3.6倍）、その他ハギ類（同2.3倍）、カタクチイワシ（同1.9倍）、ボラ（同1.9倍）、ヒラソウダ（同1.9倍）、カマス（同1.6倍）、イナダ（同1.6倍）、マアジ（同1.3倍）、カンパチ（同1.3倍）、ブリ（同1.2倍）等であった。逆に減少した魚種は、マルソウダ（前年度比34%）、その他アジ類（同37%）、フグ類（同39%）、トビウオ（同43%）、シイラ（同59%）、カワハギ（同61%）、その他イカ類（同63%）、マダイ（同72%）、ワラサ（同83%）等であった。

ブリ（6kg以上）の全漁獲尾数は123,070尾（前年度比1.3倍）で、平成11定置年度の104,850尾を上回り、過去30年で最も多い漁獲尾数であった。漁場別では片田で34,843尾、錦で34,447尾で、2漁場で全漁場の56%を占めた。ブリのまとまった入網は春季にみられ、4月に全体の63%、2～4月では全体の98%が漁獲された。全漁場合計の最高尾数は4月15日の9,961尾、次いで4月12日の8,701尾、4月16日の6,950尾、4月25日の6,559尾、

4月21日の6,543尾、4月29日の5,379尾、4月22日の5,111尾であった。1漁場における1日の最高尾数は片田の5,843尾（4月12日）、次いで片田の5,643尾（4月15日）、錦の5,426尾（4月25日）、5,364尾（4月29日）であった。

ワラサ（2～6kg未満）の全漁獲尾数は77,678尾（前年度比68.3%）で、ワラサ高水準の平成元年度以降では平成12定置年度に次ぐ低水準であった。ワラサの入網も春季にピークがみられ、4月に全体の28%、2～4月に全体の67%が入網した。全漁場合計の最高尾数は4月29日の3,001尾、次いで2月4日の2,951尾、4月26日の2,320尾、3月15日の2,263尾、2月2日の2,119尾であった。1漁場における1日の最高尾数は片田の2,930尾（2月4日）、次いで片田の2,174尾（4月26日）、2,048尾（2月2日）であった。

イナダ（0.5～2kg）の全漁獲尾数は35,620尾（前年度比1.5倍）で、極めて低調であった前年は上回ったものの、過去20年で5番目の低水準であった。イナダの入網は4月に集中した漁獲（全体の60%）がみられた他は、前年に引き続き極めて低調に推移した。漁場としては相場で最も多く、全漁場の約53%を占めた。1漁場における1日の最高尾数は相場の10,699尾（4月11日）、次いで島勝の2,000尾（4月6日）であった。

ブリ以外の主要魚種の漁獲動向では、マアジが前年度比1.4倍の506トン、サバ類が前年度比1.2倍の459トン、イワシ類が前年度比1.2倍の440トンであった。マアジは過去5ヶ年平均の水準であったが、サバ類とイワシ類は過去5ヶ年で最高の漁獲量であった。サバ類ではゴマサバ、イワシ類ではカタクチイワシが主体であった。

その他の魚種では、マダイが57トン漁獲され、極めて好漁であった前年は下回ったものの高水準傾向が続いている。前年26トンまとまって漁獲されたハガツオは0.7トンと極めて低水準であった。

関連報文

三重県：平成15定置年度三重県ブリ定置漁獲統計、2005